

2011年度受託研究概要報告

六甲ミーツ・アート 芸術散歩2011における展示作品の制作

研究メンバー

- 相澤孝司 プロダクトデザイン学科教授  
 曾和具之 プロダクトデザイン学科准教授  
 馬場田研吾 プロダクトデザイン学科実習助手  
 谷口文保 クラフト・美術学科准教授

委託者

阪神総合レジャー株式会社六甲事業部内  
 六甲ミーツ・アート 芸術散歩事務局

研究概要

本研究では、神戸芸術工科大学 ROKKOSAN PROJECT（本学教員と学生で構成されているデザイン&アートワークショップのグループ）を組織し、六甲ミーツ・アート 芸術散歩2011に招待作家として出展した。作品は、六甲ケーブル中間部、清水駅跡に展示した。作品名は、「夢」「希望」「出会い」のハコ～Message from KOBE～、展示期間は、2011年9月17日から11月23日である。また、神戸ビエンナーレの関連イベントとして、11月13日（日）JR神戸駅地下連絡通路にて東日本大震災の被災地に向けてメッセージを書き込み、干支風船を製作するワークショップを行った。

研究成果

作品を制作するにあたり、展示現場である六甲ケーブル中間部、清水駅跡の調査を行った。本作品はケーブルカーに乗車してのみ鑑賞することができる。したがって、展示現場の地形を考慮してステージ上に作品を展示し、また、投光器によるライトアップも行うことになった。作品は、3つの立方体のユニットで構成されており、材料は使用済みペットボトル（2リットルと1.5リットル）約1200本を使用した。作品中央部には、すずらんテープ（荷造り用）赤・青・緑をペットボトル内に詰め込み、リボンに見立てている。長期間に渡る屋外展示のため、作品のフレーム部分は、鉄製に白色塗装を行い、ボルトとナットで接合した。

投光器によるライトアップでは、屋外用ハロゲン投光器250wを1ユニットにつき4灯合計12灯使用した。電源は、ケーブルカー用の200Vをトランスで100Vに変圧している。点灯方法は、赤外線センサーを使用して、ケーブルカー車体通過を感知して点灯し、その後20秒で消灯するプログラムを採用した。

神戸ビエンナーレの関連ワークショップとして、11月13日（日）JR神戸駅地下連絡通路にて東日本大震災の被災地に向けてメッセージを書き込み、干支風船を製作した。ワークショップは、13時から16時まで行われ、約150名の参加があった。



写真1 ワークショップでは、被災地に向けてメッセージを書き込み、干支風船を製作した。



写真2 夜間点灯時の作品 屋外用投光器ハロゲン250w×12灯（赤外線センサーで点灯20秒後消灯する）